

(2) 現状における課題

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

- ・表土や斜面地の洗掘
- ・斜面地崩落への対策が未実施

【石・石組】

- ・一部景石の著しい割れや剥離等の劣化
- ・橋石の割れ
- ・裏込土等の流失による景石の不安定化

【水系】

- ・石組水路等の割れや剥離などの劣化
- ・上段流れの化粧玉石の流失や流路底等の損傷
- ・流路底の劣化等に伴う漏水
- ・園池内への土砂の堆積及び底石の埋没
- ・園池水位の変動

【建造物】

- ・輪蔵受石の割れや剥離などの劣化

【共通】

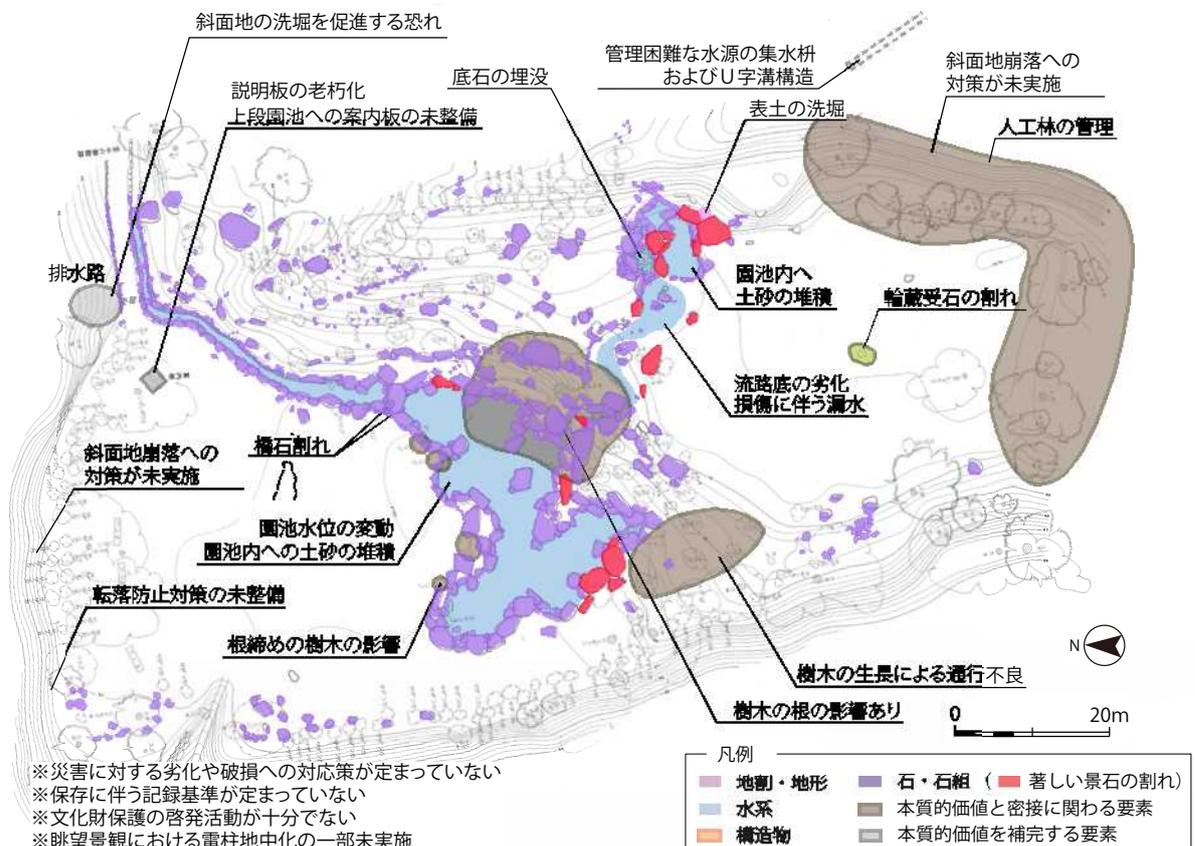
- ・劣化予防及び早期対応策の未整備
- ・保存に伴う記録基準が未設定

②本質的価値と密接にかかわる要素

- ・樹木の生長による地上及び地下遺構保存への影響や庭園鑑賞に関わる景観への影響、通行不良
- ・背景木を構成する人工林の管理
- ・管理困難な水源の集水枡

③本質的価値を補完する要素

- ・転落防止対策の一部未整備
- ・遺構保存に支障をきたす恐れのある自由動線
- ・説明板構造体の老朽化、説明事項の不足
- ・上段へ誘導する案内板の未整備
- ・斜面地の洗掘を促進する恐れのある排水路
- ・眺望景観における電柱地中化の一部未実施



【図 4-12】 諏訪館跡庭園内の課題 (「朝倉氏諏訪館跡庭園実測図」(昭和 57 年) に一部加筆)



【写真 4-51】 橋石の割れ【石・石組】



【写真 4-52】 オオモミジの根の侵入【石・石組】



【写真 4-53】 景石の割れ【石・石組】



【写真 4-54】 流路底の損傷【水系】



【写真 4-55】 流路底の劣化【水系】



【写真 4-56】 滝石組前の底石埋没【水系】



【写真 4-57】 背景木の人工林【本質的価値と密接に関わる要素】



【写真 4-58】 説明板構造体の老朽化【本質的価値を補完する要素】

第4項 南陽寺跡庭園

(1) 構成要素

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

本庭園の内、最も北にあり一乗谷のほぼ中心の高台に位置する。山の斜面を背景にして園池が設けられており、園池を囲むように平坦面が広がる。西側には八地谷方面への眺望が広がりを見せている。

【石・石組】

園池は護岸石組によって造られており、南側には滝石組も配置され立体的な石組を主体としている。また、大きな滝副石が据えられていることや、山裾に沿っても景石が配置されている。

【水系】

明確な導水路や排水路は検出されていない。園池北側には、山裾にビクニン清水という湧水がある。

【建造物】

七堂伽藍が配されていた平坦面のほぼ中央には仏殿、南西には門の遺構があるが、いずれも平面表示されている。

【その他】

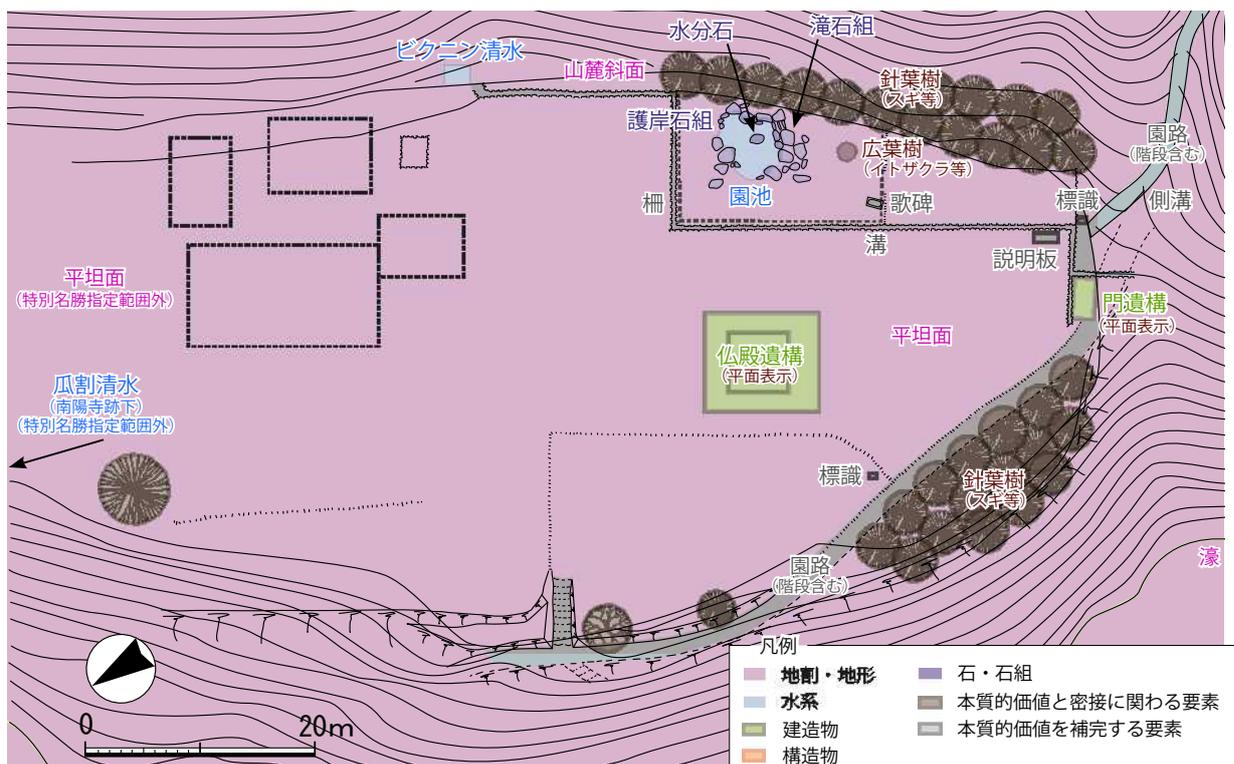
庭園の西側へは眺望が広がっており、復原町並等の景色が見える。

②本質的価値と密接に関わる要素

園池の背後は、針葉樹（スギ等）の人工林が形成されている。

③本質的価値を補完する要素

園池の山裾を除く三方においては、平成に入ってから行われた整備によって溝と柵が設けられており、園池の南側には歌碑や説明板が設置されている。平坦面には西側に園路が設けられているが、園池や仏殿の平面表示へと繋がる園路は整備されていない。



【図 4-13】 南陽寺跡庭園 構成要素図 (南陽寺跡庭園平面図 (福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館作成) に一部加筆)



〔写真 4-59〕 園池【水系】



〔写真 4-60〕 滝石組【石・石組】



〔写真 4-61〕 ビクニン清水【水系】



〔写真 4-62〕 門遺構 (平面表示)【建造物】



〔写真 4-63〕 仏殿遺構 (平面表示)【建造物】



〔写真 4-64〕 歌碑【本質的価値を補完する要素】



〔写真 4-65〕 侵入防止柵・溝【本質的価値を補完する要素】



〔写真 4-66〕 園路【本質的価値を補完する要素】

(2) 現状における課題

①本質的価値を構成する要素

【地割・地割】

- ・ 獣害による平坦面の損傷
- ・ 西側斜面地の洗堀
- ・ 斜面地崩落への対策が一部未実施
- ・ 北側境内地の一部が特別名勝指定範囲外

【石・石組】

- ・ 一部景石の割れや剥離等の劣化

【水系】

- ・ 導水経路及び排水経路の未整備
(枯池とするか否かは要協議)

【共通】

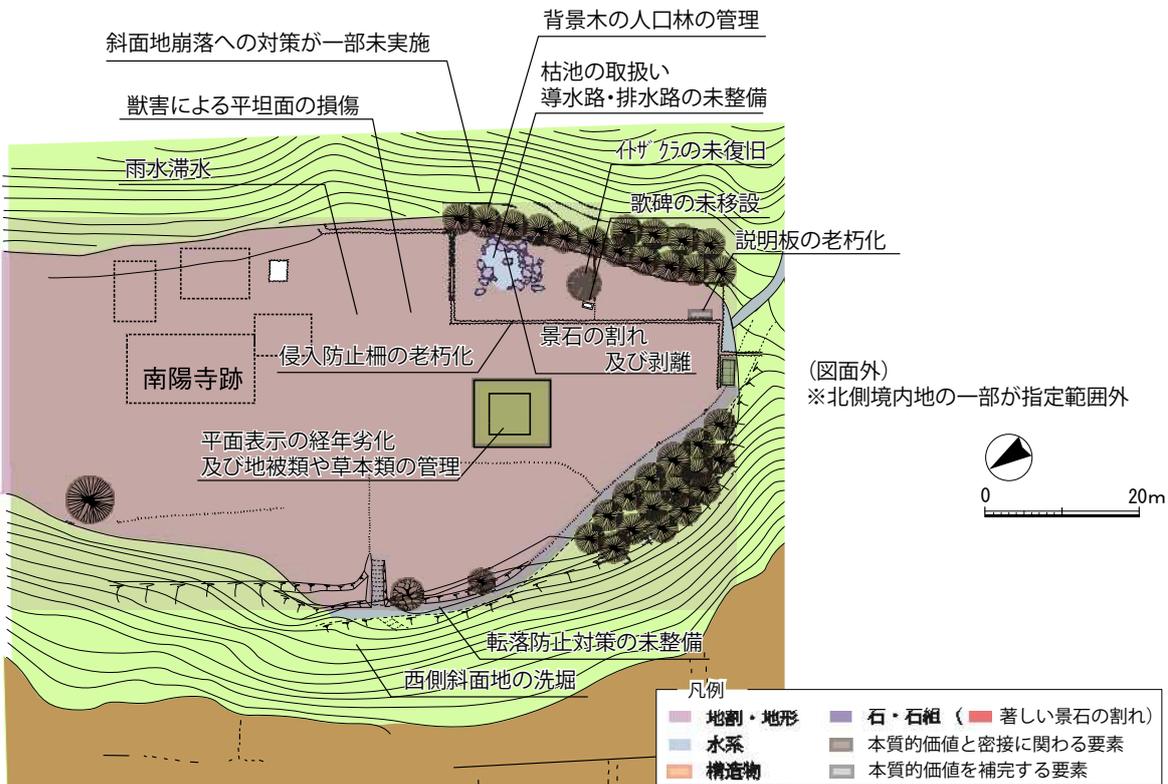
- ・ 劣化予防及び早期対応策の未整備
- ・ 保存に伴う記録基準が未設定

②本質的価値と密接に関わる要素

- ・ イトザクラ植樹の未復旧
- ・ 背景木を構成する人工林の管理
- ・ 平面表示の劣化
- ・ 平面表示を覆う地被類や草本類の管理

③本質的価値を補完する要素

- ・ 西側斜面の転落防止対策の未整備
- ・ 説明板構造体の老朽化
- ・ 平坦面の大部分における雨水滞水
- ・ 植樹記念歌碑の未移設



[図 4-14] 南陽寺跡庭園内の課題 (南陽寺跡庭園平面図 (福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館作成) に一部加筆)



[写真 4-67] 景石の割れ【石・石組】



[写真 4-68] 門遺構（平面表示）の埋没【建造物】



[写真 4-69] イトザクラ未復旧【本質的価値と密接に関わる要素】



[写真 4-70] 平坦面の雨水滞水【地割・地形】



[写真 4-71] 転落防止対策の未整備【本質的価値を補完する要素】



[写真 4-72] 説明板構造体の老朽化【本質的価値を補完する要素】

第3節 活用の現状及び課題

第1項 活用の現状

昭和42年（1967）の庭園整備に始まる環境整備事業の着手により、本庭園に多くの見学者が訪れている。より多くの見学者に本遺跡及び本庭園への理解を深めてもらうため、福井市と福井県が連携して利活用に努めてきた。

また、地域住民で組織する一般社団法人朝倉氏遺跡保存協会（以下、保存協会）をはじめとする民間団体の主導によるイベント等も開催している。この他、地元小学生が遺跡のガイドを行う「一乗小学生遺跡ガイド」など、地域学習の場としても利用されており、市外からの利用が多い。これまでに本遺跡及び本庭園で実施した活用の内容を以下にまとめる。

イベント等の実施

・資料館

常設展、特別展、企画展、特別公開展、テーマ展、遺跡見学会、庭園見学会、山城見学会、その他講座等

・その他

越前朝倉戦国まつり、越前朝倉万灯夜、旬の市、のろし駅伝、糸桜や唐門ライトアップ、写真展等

ソフト（施策等）の展開

- ・各種団体、機関の協力による遺跡案内ボランティアの配置
- ・音声ガイドによる案内システム
- ・遺跡パンフレット、散策マップの充実等

第2項 活用の課題

●安全対策

- ・見学者が安全に歩行する上で園路等の修繕が不十分
- ・侵入防止柵や休憩施設（ベンチ）等の老朽化
- ・園路舗装が砂利敷きで歩きにくい等、動線経路のバリアフリー対応が不十分

●情報発信

- ・案内板及び説明板構造体の老朽化
- ・県と市が作成するパンフレット等の印刷物と端末機器を利用した案内や解説システムの説明文、地図に統一性がない
- ・遺構表示石の一部が見えにくい

●動線計画

- ・遺構保存に支障をきたす恐れのある動線経路や見学者の侵入制限が不十分
- ・戦国期の鑑賞（鑑賞建物からの眺望）を追体験しにくい
- ・庭園間の回遊路が明確でない
- ・関連施設と一体的な周遊性を図るためのルート案内が不十分

●景観保全

- ・同種の復元遺構に複数種の資材を使用しており、統一性がない
- ・防草シートを敷設していない砂利敷舗装にて、草地化が進行している
- ・橋石等の復元や戦国期の風景を想像させる修景が未整備
- ・眺望景観を改善する電柱地中化が一部未実施

●連携体制

- ・資料館（新博物館）と本遺跡及び本庭園の相互誘客を図る仕組みが未整備
- ・各種団体や地域住民との間で保存と活用に関する共通認識が不十分

第4節 現状における課題の総括

前節までに挙げた庭園の現状及び課題について、それぞれ保存と活用上の課題に整理し、対処すべき課題を明らかにする。課題を整理し総括するにあたり、構成要素ごとに分類した課題を、保存と活用における行為に区分し下表にまとめ、整理を行った。

[表 4-7] 保存と活用における行為区分

	管理		整備
	ソフト（施策等）	ハード（日常的な行為等）	
保存	本質的価値の維持のための施策等（追加指定、現状変更等）	本質的価値の維持のために日常的に実施する管理行為（修繕等）	著しい劣化等を対象とし、主に事業として取り組む行為（再整備等）
活用	当該遺産を用いた施策展開（本質的価値を活かしたイベント等）	整備した施設の日常的な管理行為	公開の為に必要となる施設等の構築

整理の結果、保存上の課題においては庭石に代表される石製の遺構及び、地割等の劣化及び破損への対応を優先する必要がある、あわせて劣化及び破損の主要因となっている気象災害や獣害を未然に防ぐための処置も実施していく必要がある。また、気象災害に備えた排水システムの整備を実施する際には、あわせて園池の水位の安定化も考慮する必要がある。

一方、活用上の課題においては、戦国期の鑑賞を体験できるように、管理及び整備を進める必要がある、あわせて令和4年（2022）10月頃の一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）の開館を契機とし、説明板等の情報発信の強化や、周遊性を高めるなどの連携体制の強化を主に実施していく必要がある。以上を詳述すると次のとおりとなる。

第1項 保存上の課題

管理（ソフト（施策等））

●保存に必要な点検と記録

遺構の劣化状況等を把握し、早期発見と改善のために定量的な写真記録や点検が不足している。

●隣接地の環境改善 / 隣接地を含めた一体的な管理

隣接地には現在の特別名勝指定範囲と関連性を持った通路や水源等がある他、構成要素に含まれるが、指定地から外れている。

管理（ハード（日常的な行為等））

●小規模な経年劣化への対応

経年により生じた小規模な劣化への対応が不足している。（地割・地形の変化、石・石組の割れや剥離、不安定化、転石等）

●気象災害や獣害への対応

気象災害により、斜面地や掘の法面が崩落している。また、獣害により、土塁や斜面地、平坦面等において掘り返しや景石の転石が発生している。

●植栽の管理

樹木が生長し、地上及び地下遺構の保存に影響を及ぼし、庭園鑑賞に支障をきたしている。

整備

● 著しい劣化等への対応

気象災害等により著しい劣化等が進行している。

● 導水及び排水システムの整備

天候等により園池の水位が不安定であり、水の増減によって発生した劣化が進行して流路底の損傷等に伴う漏水もみられる。また、近年の気象災害に備えた排水システムが未整備である。

● 斜面地の保護

斜面地崩落への対策が未実施の箇所がある。

第2項 活用上の課題管理（ソフト（施策等））

● 情報発信の強化

本庭園への理解を深めるための、説明板やパンフレット、端末機器を利用した解説案内等が統一できていない。また、地域住民や地域外からの見学者の関心を高めるために必要な社会教育としての場が不足している。

● 関連施設と連携体制の強化

本庭園と本遺跡、関連施設の周遊性を高める情報提供や仕組みづくりが不足している。

管理（ハード（日常的な行為等））

● 諸施設等の修繕

経年により、園路や侵入防止柵、説明板、案内板等が老朽化し、破損している箇所がある。

整備

● 動線と視点場の設定

見学動線は、見学者が遺構上の一部を歩く経路があり、それによる遺構への影響が懸念されている。また、庭園観賞の視点場が設定されていないため、戦国期の鑑賞を迫体験できる場がない。

● 遺構展示・遺構表示の再整備

建造物等を模式的に表す表示等の破損がある。

上記をもとに保存と活用上の課題を整理すると、保存と活用にはそれぞれ管理と整備の両側面が合わさっており、以下の表としてまとめられる。

[表 4-8] 保存と活用における課題の整理

	管理		整備
	ソフト（施策等）	ハード（日常的な行為等）	
保存	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存に必要な点検と記録 ・ 隣接地の環境改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模な経年劣化への対応 ・ 気象災害や獣害への対応 ・ 植栽の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 著しい劣化等への対応 ・ 導水及び排水システムの整備 ・ 斜面地の保護
活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信の強化 ・ 関連施設と連携体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸施設等の修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動線と視点場の設定 ・ 遺構展示・遺構表示の再整備